

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400477		
法人名	有限会社しらゆり		
事業所名	グループホームしおさい 風の詩		
所在地	いわき市久之浜町西2丁目7-8		
自己評価作成日	平成25年8月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に笑顔で、利用者が安心してリラックスできる雰囲気と環境を配慮している。また、利用者一人一人のニーズに応えられるよう、常に寄り添い、共に生活している意識で支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人ひとりの人格を尊重した対応に気を配りながらも、家族的な意識をもって常に寄り添うことで安心して自分らしい生活ができる環境作りをしている。排泄に重点をおき、家族の予想もつかないケアを実践し、心身の力の維持や向上に繋がりを家族と利用者自身の喜びになる地道な取り組みをしている。管理者は夜勤時にゆっくりと話せる機会を設け、管理者・同僚同士との信頼関係が密になり、自分の言葉で自信をもって意見を提案できる働きやすい職場となっている。

innkaku			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時、事業所理念を、再確認の意味を込めて音読し、現場に入るようにしている。	管理者を中心とし、職員全員で作成した「優しい心・おもいやり・慈しむ心・尊重する心」を実践している。日々理念を唱和することで意識づけができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の接骨院に通院しながら、待合室で会話を楽しんだりしている。	町内会に加入しており、地域行事には積極的に参加し、散歩時には地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。月1回の地域のお茶会には利用者と共に参加し事業所の理解を深めてもらい、季節毎の事業所行事へのお誘いをする等、近隣の人達と触れ合う機会を多く設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方や、入居者の家族等からの介護についての相談に、適切なアドバイスができるよう配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告について幅広く意見やアドバイスをもらい、実践につなげている。	行政・包括・家族・区長・整復師等、幅広い方々から事業所側からの相談やアドバイスだけでなく、地域全体としての困りごと等も話し合う等、多方面からの意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括センターの依頼により、地域個別ケア会議に参加したりしている。	包括からの依頼があれば、いろいろな会議や研修に参加し、訪問等を頻繁にし協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口は施錠せず、居室の窓も自由に開放できるようになっている。また、気がつかないうちに拘束につながる行為をしてはいないか、綿密に話し合いをしている。	ドア・窓は全て解放されている。グループホームとしては広い共用スペースだが死角がなく、利用者は自由に行動している。職員は利用者一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチしながら自然な形で見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファランス等で勉強する機会を設け、常に意識しながらケアにあたるようにしている。入浴時等は、身体観察も含め、不自然な痣がないか報告しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の仕組みを勉強し、状況に応じてアドバイスしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分に説明をし、理解して頂き、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望箱を設けて、遠慮なく苦情も含め、要望等が出せるようにしている。また、面会に来られた家族と職員間で十分なコミュニケーションを図れるよう配慮している。	意見・要望箱を設けて、家族や関係者の思いや意見を聞こうとしている。家族状況の把握によりコミュニケーションが密にとれており、家族、職員間で遠慮なく話せる信頼関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議では言えないことなど、夜勤時などにゆっくりと話せる機会を設けている。	2ヶ月に1回の全体会議の他、随時ミニカンファレンスを行ない意見を吸い上げている。夜勤時等にゆっくりと話せる機会を設け職員の要望や意見を聞くように心がけ、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職や責任ある仕事を任せることで、手当として支給し、更なるスキルアップを目指せるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップを目指す資格取得を支援する。外部の研修会等の参加も積極的に取り入れていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少しづつではあるが、同地区の施設の職員など、訪問してくれる機会も増え、情報交換も出来るようになりつつある。地域個別ケア会議に参加している他の事業所の方とも情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人にお会いし、じっくりとお話を伺い、いろいろな提案をしながら、信頼関係を築けるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の、身体的または精神的負担を、少しでも軽減できるよう、いろいろな提案をしながら、信頼関係を築けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家庭を訪問し、環境も含め現状を把握し、本人や家族の希望にそったサービスの提供ができるかどうか十分に話し合う。また、同時に情報の提供にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、本人の出きる範囲で協力を求め、役割を持ってもらうことで、共に助け合いながら生活している意識を持てるよう配慮している。洗濯干し・たみ、食器拭き、お掃除など。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担にならない程度で、面会や行事への参加に協力してもらい、共に支える立場を築いている。時には、ご家族が食事の支度に参加してくれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人等の面会も、ゆっくりと過ごせるように配慮している。食事等も、希望があれば予約制で一緒に召し上がってもらっている。	家族や馴染みの人も一緒に食事ができ、ゆっくり過ごせる雰囲気作りができています。希望があれば電話の取り次ぎもしており、馴染みの関係が継続できるよう支援している。希望により行きたいゆかりの場所にもその都度対応し、喜んでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員ではなく、利用者同士でも助け合えるような関係を導いている。カーテン閉めやとじまり、食事の下膳など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、時折電話や訪問をし、他の介護サービス事業所とも連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活暦を十分に理解し、介護計画に取り入れている。	生い立ちの違う利用者の思いの把握は、生活歴の中から探り出し、思い出せない利用者は仕草や表情から読み取るようにしている。職員間で共有し介護計画には反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、以前入所されていた介護サービス事業所との連絡を密にし、どのような環境で過ごされていたのかを把握し、今後の計画につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が常に寄り添い、一緒に行動することで、一人一人のペースをつかみ、無理強いせず、リラックスして過ごせるよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が介護計画を十分に理解し、また、必要に応じて変更の必要性が出てくることを意識し、モニタリングを通して介護計画の変更等に反映させている。	変更の必要性を認識している事で、本人の状況が変われば柔軟な計画ができています。どんな場所でもミニカンファレンスを行い、モニタリングに基づき日々ケアの実践にいかしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入の仕方等、職員同士、書きやすくなりやすく工夫している。さらに、カンファレンス時に情報の共有ができるよう確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り家族の負担を軽減できるよう取り組んでいる。病院受診の付き添い等。また、外食や買物等、個々の希望もなるべく取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動にも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は往診で対応しているが、治療方針や服薬が変わったとき等、本人や家族に説明し、同意を得てから治療に当たってもらう。	月2回定期的に協力医の往診を受けている。入居前からのかかりつけ医（整形・眼科・皮膚科等々）の受診も家族状況により職員が代行することもある。往診後や受診時は連絡を密に行い、情報を共有し適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際、適切に医師に状態を伝えられるよう、前もって準備している。また、医療機関との連絡記録を記入し、職員同士の情報共有に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に任せているが、どのような状況にも対応できるように、医療機関との関係を密にしていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族が不安にならないよう、機能低下や病状悪化に伴い、当事業所に対処できなくなった場合、また、そうなる可能性がある段階で、家族との連絡も密にし、なるべく希望にあった方法での今後について検討している。	基本的には看取りは行っていない。重症化した場合や終末期においては、協力医・家族・スタッフと話し合い今後の方針を検討し最善の選択ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	さまざまなケースでの対策を確立させ、訓練へつなげた。また、外部の研修会にもさんかしている。職員全員が普通救命講習終了証を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内の避難訓練だけでなく、地区の防災訓練への参加を予定している。職員全員被災しているため、防災への意識も高く、常に準備している。保存食や水、毛布の確保あり。	年2回消防署の協力を得て避難訓練を行っている。8月には久乃浜地区での防災訓練に参加し、事業所として被災の体験談を話す等、災害時避難への再確認ができた。地域全体が被災しているため防災への意識を高く持っており、協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げられているが、常に人生の先輩として敬い、慈愛の心を持ってケアにあたっている。	一人ひとりの人格を尊重した話しかけや対応に気を配っている。利用者間でプライバシーに関わる話題になった時に、なごやかな雰囲気になれるような手法を職員が身につけており、対応につなげている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さまざまな場面で、選択の機会を持てるようにしている。飲み物を選んだり、外出などの自由等。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々特別な事をするのではなく、～しようと言う言葉を引き出せるように、環境の整備に努めている。入浴も曜日は決まっているが、午前・午後の希望を取ったりしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問により美容師のカットを受けられる。朝の身支度も、本人の希望や好みを取り入れ、選ぶ楽しみを感じてもらえるよう配慮している。職員と一緒にマニキュアを楽しんだりもしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は積極的に参加してもらっている。時には、利用者の希望を聞き入れ、献立を作ったり変更したりしている。	事業所として、食事が自慢であり利用者の希望を取り入れたたり、四季を感じさせる献立作りをしている。また、春には川辺に面したテラスでお花見をしながらバーベキューを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取は、常に記録に残し、足りない分を補えるようにしている。どうしても不足になる場合は、摂取しやすく工夫を対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、居室にて口腔ケアをしている。義歯の洗浄等。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意が鈍くなっても、トイレ誘導により失禁を減らすよう取り組んでいる。また、オムツ使用の場合も、その日の体調により、トイレでの排泄につながる。短い時間でも布パンツで対応する時間も作っている。	排泄チェック表だけに頼らず、状況や体調に合わせて対応しており、失禁も減少し常に清潔に保たれている。オムツ使用者にも自尊心を傷つけない声かけ誘導につとめている。一人ひとりの力をもとに無理のない自立支援を目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便観察により、状態や回数を把握し、便秘にならないよう配慮している。 食事内容も、個々に対応できるものは変えている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決まっているが、希望があればそのつど対応している。	規則的なサイクルにとらわれず、利用者の希望があればその都度対応している。夏季の暑い日にはシャワー浴をし、汗を流しさっぱりとした気持ちで過ごせるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、なるべくゆったりとした時間を過ごし、個々の状態に合わせて入眠へとつながるよう対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルをつくり、常に職員が把握できるようにしている。また、担当責任者を置くことで、状況を確認し、医療機関との連携につなげている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を発揮できる環境を整え、活動できるようにしている。家庭菜園やお裁縫な・習字等。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に散歩や近所の商店へ出かけ、近所の方と交流が持てるようにしている。	近所の直売所や商店・コンビニに散歩を兼ねて買い物に出かけ、地域の方と交流をもっている。希望時にはデパートでの買い物やウインドウショッピング・外食を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理においては、利用者さん同士のやり取りや、被害妄想などもあり、難しい問題があるが、買物に出かけた時などは、自分でお財布から支払うようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の取り次ぎをし、会話を楽しめるように配慮している。手紙を書く人には、切手・便箋の買物やポストへ出すお手伝いをしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	さまざまな活動が楽しく出来るよう、用途に応じて場所を使い分けできるようにしている。観葉植物、家具、絵画等も、昔風のものや、こころ安らぐ物になるよう配慮している。	季節ごとに利用者と花の飾りつけをしたり、利用者の作品の書をさりげなく展示し、創作の喜びと見て楽しむことを共有している。古民家風の室内は窓ガラスが大きく、明るさ、心地よさの中に落ち着いた空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具やソファの配置を工夫し、他の利用者に気兼ねなく、気のあった利用者同士過ごせるようにもしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でも居心地よく過ごせるように、自宅から愛用品を持ってきてもらっている。家族の写真を飾ったり製作用品を飾ったりしている。	住み慣れた居室になるよう自宅での愛用品や家族の写真を飾ったりと、自宅とのギャップのない工夫をしている。お位牌も持ち込み可能であり、職員が仏壇へのお供え物を利用者と共に用意したりと、細やかな心遣いがなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは勿論のこと、トイレの目立つ表示や、居室の入り口のシンボル等、自分で行動できるよう配慮している。			